

# 出題のねらい・解答例 〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学〔流通科学部〕

## 【小論文】

### 〈出題のねらい〉

本小論文の出題にあたっては、流通科学部における学びの中心となる経営学・商学・経済学分野を見据えて題材の選択を行った。

本文では、コロナショックの産業インパクトについて、これまであぶりだされなかった事業における課題やビジネスモデルの転換などが改めて浮き彫りになったことが述べられている。また、必ずしもコロナ禍がネガティブな側面ばかりではなく、新たな需要の芽を発生させる可能性をも秘めていること、さらには、企業単位の事業構造への変化のみならず、日本全体の産業における編成の在り方にまで変化がおよんでいることなどが述べられている。

出題は、これらの変化を基に、ミクロ・マクロの視点から、文中から読み取れるあらゆる側面を俯瞰的に現状把握しながら、今後の日本の企業・産業の展望を捉えているかを問う内容となっている。あらゆる側面とは、①コロナショックで加速化する変化が新たな派生需要をもたらすという側面。②ウィズコロナのためのインフラ形成が、その後の潜在需要を顕在化させる契機となる側面。③コロナショックが人々の価値観の変化を加速化させていく側面などである。

問一では、コロナショックによって需要パターンが変化しているということに関して、文中より3つのパターンを適切に抽出するとともに、観光業界におけるウィズコロナ時代の需要の方向性としてどのような可能性があるのかについて、制限文字数以内で簡潔にまとめる力を測定することをねらいとした。

問二では、コロナショックを受けて人々の価値観の変化が加速化し、需要も変容している実態を踏まえたうえで、解答者自身が体感した価値観の変化とはどのようなものであったかについて、経済社会の需要の変化を適切に説明しながら、消費行動の傾向がどのように変化したかに関連させて自らの考えを論理的に表現する力を測定することをねらいとした。

このように、コロナ後の需要喚起の在り方など、日本企業を基軸として今後の展望を読み解いていく能力をはかることをねらいとして出題した。

### 〈模範解答例〉

問一

- (一) 一つ目は、コロナショックからの連鎖反応でいわゆる派生需要を生み出すことによる需要増、二つ目は、コロナショックの影響で新しい需要への供給インフラが整備されはじめ、ポストコロナ時代に潜在需要が顕在化すること、三つ目は、人々の価値観の変化が新しい需要を喚起するということ。(133字)
- (二) インバウンドや県境を跨いだ国内旅行もままならない中、地場産業のインフラが整備されることで、地場需要の顕在化の永続性につながる可能性がある。つまり、地元の魅力を再発見するような地元観光が改めて注目されるということもその一つである。(114字)

問二

CMなども大人気で盛り上がる、というシーンではなく、感染リスクを避けるような少人数やリモートを前提としたサービスの提供や商品のPRの方法を提示し、社会で求められる行動様式を取り入れ、人々の共感を得られるように方針を変化させている。従来までの需要の在り方から、巣籠り需要へ変容を遂げているといえる。例えば、他人との接触機会を減らすということからも、人に見せるものを重視するというよりは個人で楽しむものを重視したいと考えるようになり、消費の傾向が変化したともいえる。もしくは、リモートの需要が増えたことから対面がかなわない相手へ画面を通して元気な姿をきれいに見せたいという思いから、OA機器

を新たに用意したという事例も見られた。さらに、登校などでやむを得ず外出する際は、感染を防ぎたいという考えから、マスクや手指消毒のアルコール液など衛生用品を買い求めることも顕著に増えたことなど、需要変化がみられた。(399字)